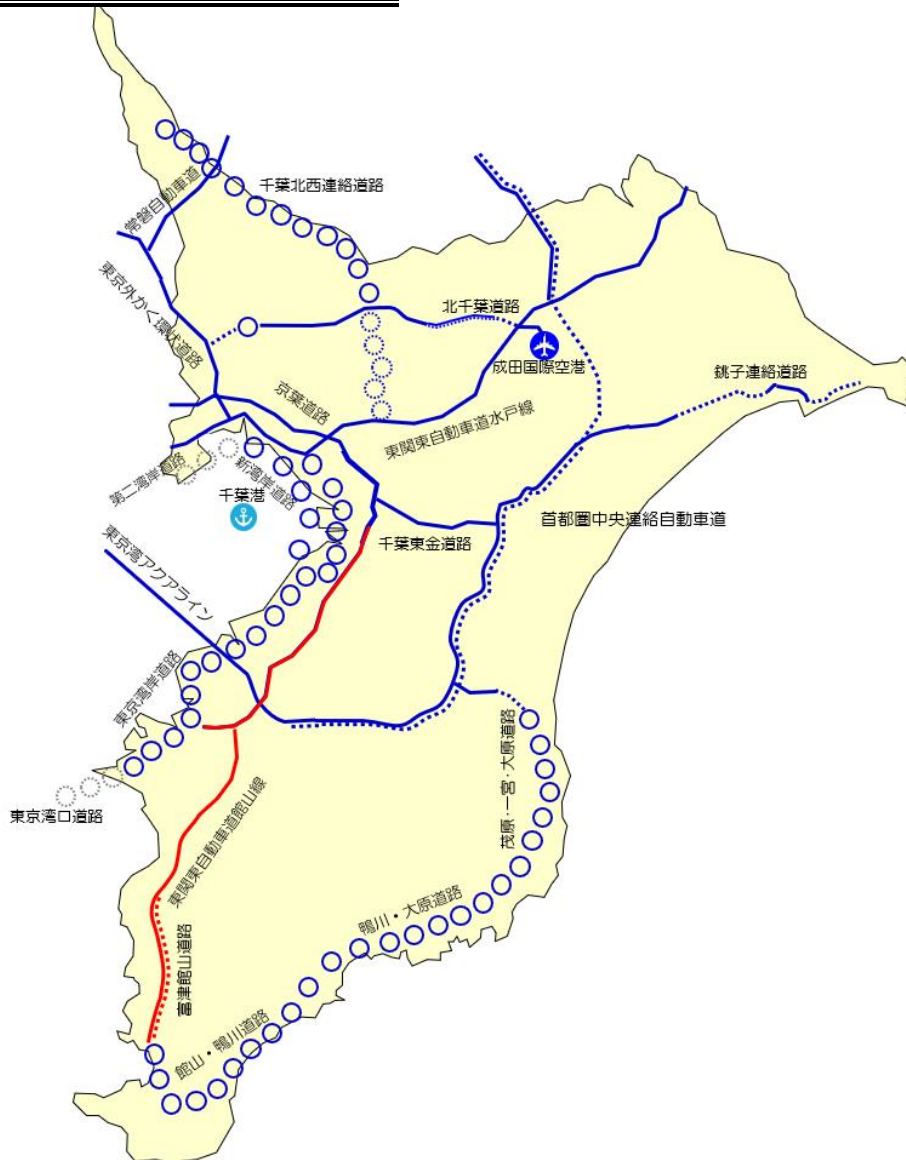


東関東自動車道館山線の整備促進に関する 要 望 書

令和6年8月9日

様



東関東自動車道館山線建設促進期成同盟会

会長 千葉県知事 熊谷 俊人

東関東自動車道館山線の整備促進に関する要望書

千葉県は、成田国際空港をはじめ、幕張新都心、かずさアカデミアパークなどの国際交流拠点や研究開発拠点を有し、臨海部の産業集積、賑わう商業施設、豊富な農林水産資源や観光資源などにあふれております。

これらの本県が持つポテンシャルを最大限に活用していくとともに、地方創生及び国土強靱化を推進し、千葉の未来を切り開くためにも、災害に強い広域的な高速道路ネットワークの整備が極めて重要かつ急務となっています。

特に東京湾沿岸部と南房総地域を結ぶ東関東自動車道館山線は、東京湾アクアライン、首都圏中央連絡自動車道と一体となり、本県の半島性を克服し、農林水産業などの生産性の向上や、観光振興など地域の活性化に資する極めて重要な道路です。

また、観光面のみならず、大規模災害時における広域的な応急対策や復旧活動を迅速に実施するため、非常事態に対応した交通の確保を図る緊急輸送道路としての役割も担っています。

館山線は、開通区間の4車線化や「アクアライン割引」の効果と相まって、開通当初（平成19年）に比べ交通量が5割増加し、「人」、「モノ」の流れが活発化したことで、君津・安房地域の観光入込客数は1.6倍となるなど、館山線のストック効果による地域経済の好循環も生まれています。

一方、富津館山道路では、対面通行の2車線であるため、観光シーズンや休日等において渋滞が発生しているとともに、工事や事故等による通行止め等も数多く生じていることから、観光振興や防災力の向上のためにも、早期の4車線化が必要不可欠です。

令和6年3月には、富津竹岡インターチェンジから鋸南保田インターチェンジまでの6.8kmが準備調査箇所として事業許可されたところであり、今後、調査が進展し、速やかな事業化に繋がることを期待します。

さらに、ネットワークの代替性確保の観点から、館山線の富浦から館山までの計画の具体化を図ることが必要です。

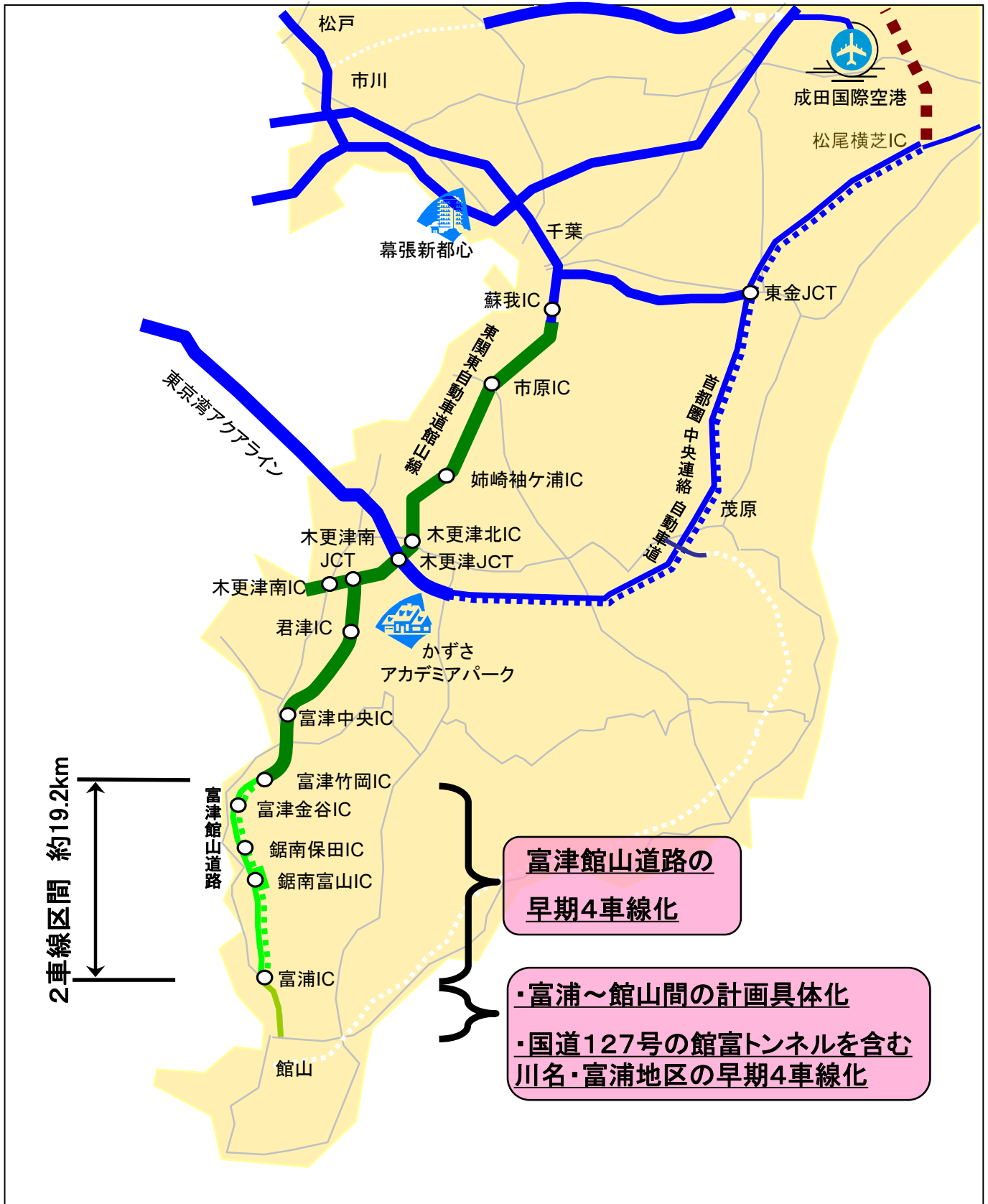
また、富津館山道路の富浦インターチェンジと館山市街地を結ぶ国道127号について、安房地域における防災ネットワークの強化をはかるため、館富トンネルを含む川名・富浦地区の早期4車線化を図ることも必要です。

つきましては、南房総地域の道路整備の推進に必要な予算を安定的に確保し、次の事項の実現について、引き続き特段の御高配を賜りますよう、ここに要望します。

記

- 1 東関東自動車道館山線の一部を構成する富津館山道路について、早期の4車線化を図ること。
- 1 東関東自動車道館山線の富浦から館山までについては、計画の具体化を図ること。
- 1 富津館山道路の終点部である富浦インターチェンジから館山市内までの国道127号の館富トンネルを含む川名・富浦地区について、早期の4車線化を図ること。
- 1 首都圏における交流・連携の強化、地域経済の活性化等、東京湾アクアライン通行料金引下げが首都圏にもたらす効果等を十分踏まえ、「アクアライン割引」を継続すること。
- 1 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の最終年度となる令和7年度においても必要な予算・財源を確保すること。また、令和6年能登半島地震などを踏まえ、国土強靱化実施中期計画を早期に策定し、切れ目なく、継続的・安定的に国土強靱化の取組を進めるために必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保すること。
- 1 激甚化・頻発化する大規模自然災害の脅威・危機に即応するための地方整備局等の体制の充実・強化や災害対応に必要な資機材の更なる確保に取り組むこと。
- 1 道路整備・管理が長期安定的に進められるよう、新たな財源の創設等により、令和7年度道路関係予算は、賃金水準などの上昇も加味した上で、必要な予算を確保すること。

東関東自動車道館山線の ネットワーク機能と要望箇所



東関東自動車道館山線建設促進期成同盟会 要望者一覧

千葉県知事	熊	谷	俊	人
千葉市長	神	谷	俊	一
館山市長	森		正	一
木更津市長	渡	辺	芳	邦
市原市長	小	出	讓	治
鴨川市長	長	谷	川	孝
君津市長	石	井	宏	子
富津市長	高	橋	恭	市
袖ヶ浦市長	粕	谷	智	浩
南房総市長	石	井		裕
鋸南町長	白	石	治	和
千葉市議会議長	石	川		弘
館山市議会議長	太	田		弘
木更津市議会議長	鶴	岡	大	治
市原市議会議長	菊	地	洋	己
鴨川市議会議長	佐	々	木	久
君津市議会議長	小	倉	靖	幸
富津市議会議長	平	野	英	男
袖ヶ浦市議会議長	榎	本	雅	司
南房総市議会議長	峯		隆	司
鋸南町議会議長	青	木	悦	子

(令和6年8月1日現在)